

レイジンソウ	<i>Aconitum loczyanum</i> Rapaics	絶滅危惧Ⅱ類
		キンポウゲ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が大幅に減少している。また、大部分の個体群がその再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	写真(高橋弘)
形態の特徴	多年草。茎は直立するか斜上、または曲り、長さ30-80cmで、しばしば分枝する。根生葉は長い柄があり、腎円形で5-7中裂する。茎葉は小型で葉柄は短い。花期は9-10月。総状花序に淡紅色で長さ23-28mmの花を3-15個つける。	
生態的特徴	草原、林縁、林中に生える。	
分布状況	日本固有の種。本州(関東地方西部)~九州の暖帯上部~温帯に分布する。県内では県南の中部及び西部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県南の2地域にわたっているが、もともと生育個体数は少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定できることのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良